

バニアンツリーの不思議

常夏ハワイで最も似合っているのはヤシの木ではないだろうか。ダイヤモンドヘッドとヤシの木。真っ白な砂地の海岸線とヤシの木。しかしそれらとは違って見るからに不思議な木を見つけた。それは南国にしか見ることのできない珍しい木であった。これとよく似た木が沖縄にあった。それはベンジャミンという木で、枝の一部が地面に向かって伸び、そのまま根っ子として成長していく。

この木を初めて見たのはイオアニ宮殿の裏庭であった。一本の大きな木の枝から、数十本もの枝が地面に向かって垂れ下がり、そのまま根っ子へと成長していく。

それはバニアンツリーと呼ばれる木であった。ワイキキ海岸近くでも、またホテルの庭でも見る事ができた。世界に 800 種ほどあるクワ科イチジク属の一種で、ハワイ固有の植物でなく原産はインド。別名をベンガル菩提樹とかバンヤンジュとも呼ばれている常緑高木。ハワイにはこうした外来種の植物が世界各国からたくさん入ってきている。

一本の木から傘のように大きく葉を茂らせ枝は上へ、そして地面と平行して四方八方に伸びていく。その太枝や幹から多数の気根が生じ、地面に向かって降りていく。地面に達する前に何本かがブラブラしている様子は、まるで縄暖簾のように風に吹かれれば揺れている。地面に達すれば幹と同様に成長する。やがて一本の樹から小さな森へと発展していく。生きる力の凄まじさをまざまざと見せつけられた思いがする。私ももっと旺盛に人生を歩まねば！ 撮影 2010 年冬

